熊谷中心市街地にぎわい景観まちづくりプラン（概要版）

1　はじめに

■ 景観まちづくりプラン策定の目的

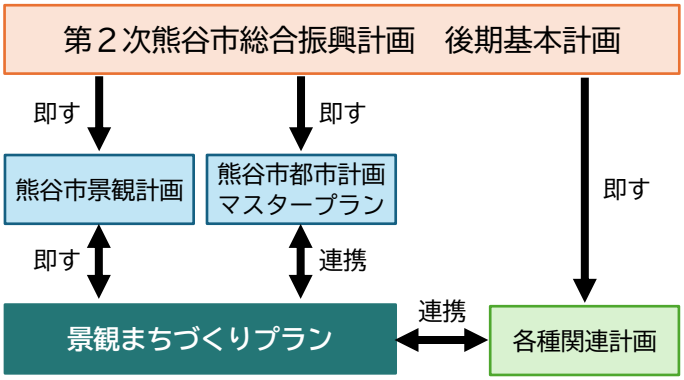
本市では、これまで市民の共有財産である景観を生かした協働による良好な景観形成を図るため、景観形成に関する理念や目標、基本方針、方策を明確にすることを目的に景観法に基づく熊谷市景観計画を平成21(2009)年に策定し、景観まちづくりに取り組んできました。この熊谷市景観計画において、本市の中心的な商業・業務地であり、にぎわいが感じられる景観形成を図ることが期待される地区として「熊谷中心市街地にぎわい景観誘導地区」が定められています。

本プランは、熊谷市景観計画で定める「熊谷中心市街地にぎわい景観誘導地区」において、良好な景観形成を推進するため、新たに当該エリアの景観形成の基本方針等を定めることを目的とします。

■ 計画の位置付け

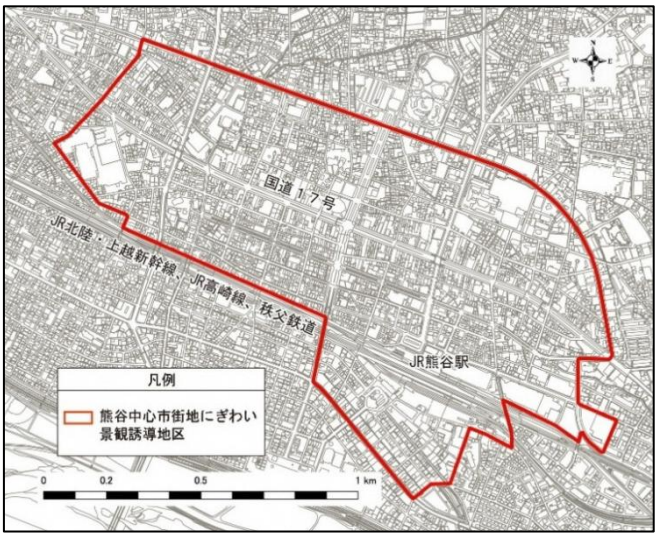
熊谷市景観計画は、上位計画である第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画における政策「快適で暮らしやすいまち」の実現に向けて、本市の景観形成における総合的な指針となる計画となります。

本プランは、熊谷市景観計画を上位計画とし、都市計画分野における基本的な方針となる熊谷市都市計画マスタープラン等の各種関連計画と連携を図ります。



■ 対象区域

本プランの対象区域は、熊谷市景観計画で定める「熊谷中心市街地にぎわい景観誘導地区」とし、具体的には下記の範囲とします。



■ にぎわい景観の捉え方

「にぎわい景観」とは…

人々が集まり、活気やにぎわいを感じられる　景観（風景）

都市やまちづくり、観光地、商業エリアなどで使われる概念で、「見た目」だけでなく、「雰囲気」や「人の活動」といった動的な要素も含む。

○　にぎわい景観のイメージ例



うちわ祭の風景



札幌市創成川通の風景※

※ 出典：「良好な道路景観と賑わい創出のための事例集/平成26（2014）年３月/国土交通省」

2　市民の景観意識

対象区域における景観まちづくりプランの策定に当たり、中心市街地の風景に対する認識やまちづくりへの取組などに関する住民意向を把握し、プランに反映することを目的にアンケート調査と４日間にわたるワークショップ及びまち歩きを実施しました。

■ 中心市街地においてにぎわいを創出するために必要なこと

- 「買い物や食事が楽しめるお店の充実」（61.0%）の回答割合が最も高くなっていますが、「くつろいだり休んだりすることができる場所」、「居心地よく歩きたくなる街路」、「緑が多く自然豊かな環境」などまちなかの空間利用に関する回答割合も高くなっています。
- 「より利用しやすいバスや電車などの公共交通機関」の回答割合も高く、アクセス性向上も重要といえます。

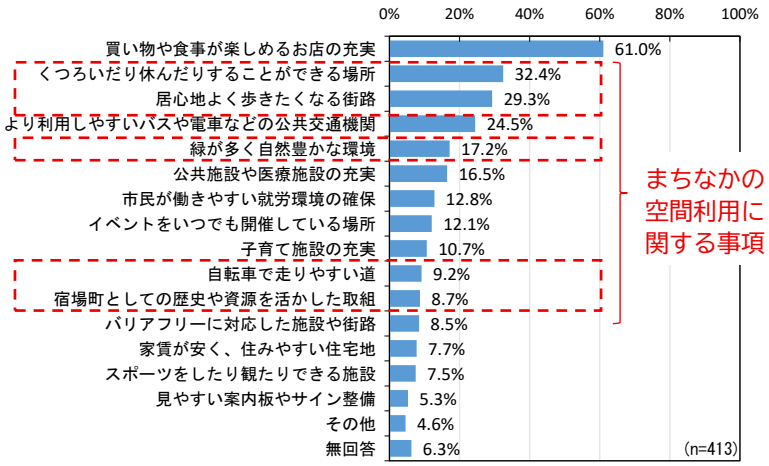


図　にぎわいを創出するために必要なこと（複数回答）

■ アンケート調査による景観意識

エリア	にぎわいを生み出す景観づくりとしてどのような取組を行ったらよいか		
	1位	2位	3位
星川通り周辺	夏場における涼める空間（ミスト・日陰など）を配置する	水と親しめる空間を増やす	休憩できるベンチなどを配置する
市役所通り周辺	休憩できるベンチなどを配置する	空き家や空き店舗の活用を促進する	夏場における涼める空間（ミスト・日陰など）を配置する
ラグビーロード周辺	道路の沿道に植栽や街路樹などの緑を多く配置する	夏場における涼める空間（ミスト・日陰など）を配置する	休憩できるベンチなどを配置する 空き家や空き店舗の活用を促進する
熊谷駅周辺	夏場における涼める空間（ミスト・日陰など）を配置する	空き家や空き店舗の活用を促進する	休憩できるベンチなどを配置する
熊谷駅南口周辺	空き家や空き店舗の活用を促進する	休憩できるベンチなどを配置する	夏場における涼める空間（ミスト・日陰など）を配置する

本プランにおいて「星川通り」「市役所通り」は都市再生整備計画熊谷市中心市街地地区（第３期）における滞在快適性等向上区域内の星川通線、市役所通線及びその沿道エリアとします。

■ 景観まちづくりワークショップによる景観意識

《まちづくりの将来像（キャッチフレーズ）》

「木陰の下で、気軽に買い物やカルチャーを楽しめる歴史と自然が調和した水のまち」

「キラキラ・ワクワク星川通り」

「清流に心楽しむ星川通り」

「ひと　まち　つなぐ　グリーンタウン」

《中心市街地に関連する主な意見(抜粋)》

星川・星川通り

○にぎわいを感じる景観
- 星川通りのレンガ調の道路舗装が素敵
- 星川夜市では多くの人が来て年齢を問わず楽しまれている

○にぎわいを感じない景観
- 駅から星川通りに入ったところが両側駐車場なのでその先に行こうと思わない
- 星川通りの熊谷染の型が目立たない
- 星川通りのゴミ置き場

○まちづくりのアイデア
- 星川沿いの空き地にひと休みできる施設や公園がほしい
- 星川周辺にテイクアウト可能な飲食店を増やす
- 星川の憩いの場と外の道路の間の壁をなくす
- 星川の入口に大きなアーケードやアートを設置
- 水の上を歩けるガラス板
- 柳や桜を植える
- フォトスポットの設置
- 星川通りのデジタルマップ(アプリ)
- 歩行者天国にする

市役所通り・コミュニティひろば

○にぎわいを感じる景観
- 市役所通りの街路樹、植栽
- コミュニティひろばは祭りやイベント時はにぎわっている

○にぎわいを感じない景観
- 市役所通りの横断歩道の見通しが悪く危険

○まちづくりのアイデア
- 市役所通りをマルシェなどで活用
- 市役所通りの歴史の成り立ちをＰＲする
- 歩行者天国にする
- 新市役所開庁後の市役所跡地の活用

歴史文化・路地

○にぎわいを感じる景観
- 熊谷聖パウロ教会の佇まい
- 路地の知らないお店がよい、新しい発見がある

○にぎわいを感じない景観
- 石上寺、熊谷寺、星溪園の街並みの非連続性

○まちづくりのアイデア
- 高城神社、千形神社、熊谷聖パウロ教会への動線、案内の仕方
- 熊谷まつり会館の整備

星溪園

○にぎわいを感じる景観
- 星溪園の落ち着き

○にぎわいを感じない景観
- 星溪園は古い建物や風景も素敵なのに人が来ない

○まちづくりのアイデア
- 星溪園東口への道、東門周辺の整備
- 星溪園周辺の古風なまちづくり
- 星川の憩いの場と外の道路の間の壁をなくす
- 星溪園までのルートマップづくり
- 歩いて星溪園へ向かう和風の案内板があると良い

熊谷駅周辺

○にぎわいを感じる景観
- 正面口のミスト
- 熊谷駅の観光案内
- ワイルドナイツペナント

○にぎわいを感じない景観
- 南口に魅力的なお店がない

○まちづくりのアイデア
- 熊谷駅を壁面緑化

3 にぎわい景観の整備方針

■ にぎわい景観まちづくりのテーマと将来イメージ(目指す姿)

にぎわい景観まちづくりのテーマ

にぎわいある風景に　熊谷らしさの景観まちづくり

1 ゆったりと時間が流れる水辺空間

まちなかのシンボルである星川を中心に、水と触れ合うことができる空間を確保しながら、歩行者の安全性が担保され、ゆったりとした時間が過ごせる空間づくりを目指します。

2 心地よく、楽しく歩くことができる街並み空間

歩きたくなる仕掛けづくりを行い歩行者の回遊を促し、おもてなしの演出や質の高いサービスが提供できる街並み空間の形成を目指します。

3 「まちの記憶」を未来につなげる

寺社・教会等の歴史・文化資源や、人々の暮らしに根差した生活文化が息づく路地などを生かしながら、熊谷のまちの記憶を未来につなげていきます。

4 人と人をむすぶ新しいまちの顔づくり

北部地域振興交流拠点の整備により、まちなかの人の流れが大きく変わる可能性があります。様々な交流が生まれる新しいまちの顔として、周辺エリアで魅力あふれる空間づくりを目指します。

5 まち巡りの玄関口

地域性を生かしたデザイン、まちなかの回遊促進、駅前における滞在空間の質向上、建物更新等の促進を通じて、玄関口としての熊谷駅周辺の景観形成と機能強化を目指します。

■ まちづくり整備方針図

景観まちづくりプランの整備方針図について、以下のように整理しました。

誘導プロジェクト3
歴史文化・路地の魅力・まち巡りのにぎわい景観づくり

○歴史・文化資源と調和した街路整備と情報発信

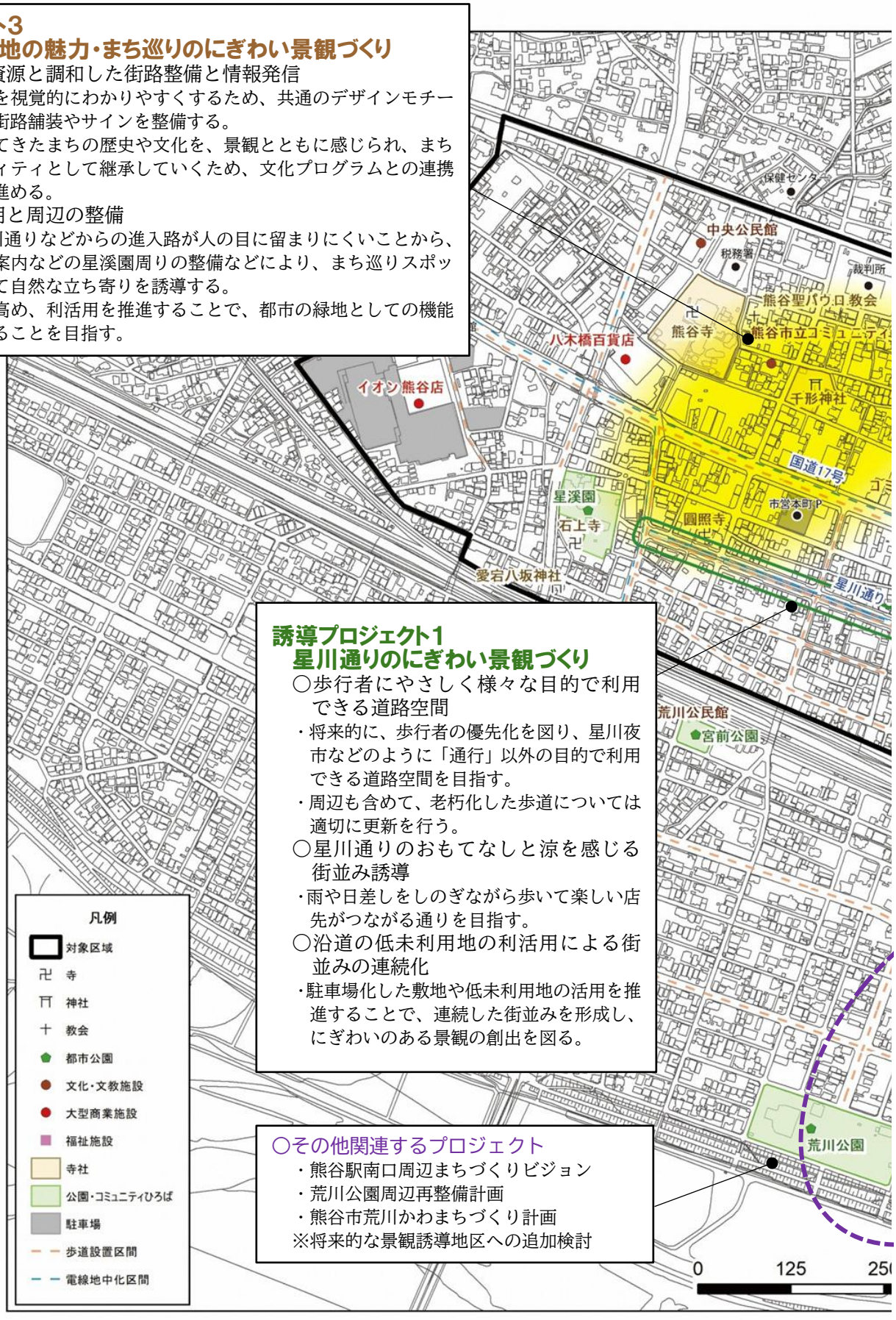
・歴史文化地区を視覚的にわかりやすくするため、共通のデザインモチーフを設定して街路舗装やサインを整備する。

・積み重ねられてきたまちの歴史や文化を、景観とともに感じられ、まちのアイデンティティとして継承していくため、文化プログラムとの連携や情報発信を進める。

○星溪園の活用と周辺の整備

・星溪園は、星川通りなどからの進入路が人の目に留まりにくいことから、東側進入路や案内などの星溪園周りの整備などにより、まち巡りスポットの一つとして自然な立ち寄りを誘導する。

・施設の魅力を高め、利活用を推進することで、都市の緑地としての機能を一層発揮することを目指す。



誘導プロジェクト1
星川通りのにぎわい景観づくり

○歩行者にやさしく様々な目的で利用できる道路空間

・将来的に、歩行者の優先化を図り、星川夜市などのように「通行」以外の目的で利用できる道路空間を目指す。

・周辺も含めて、老朽化した歩道については適切に更新を行う。

○星川通りのおもてなしと涼を感じる街並み誘導

・雨や日差しをしのぎながら歩いて楽しい店先がつながる通りを目指す。

○沿道の低未利用地の利活用による街並みの連続化

・駐車場化した敷地や低未利用地の活用を推進することで、連続した街並みを形成し、にぎわいのある景観の創出を図る。

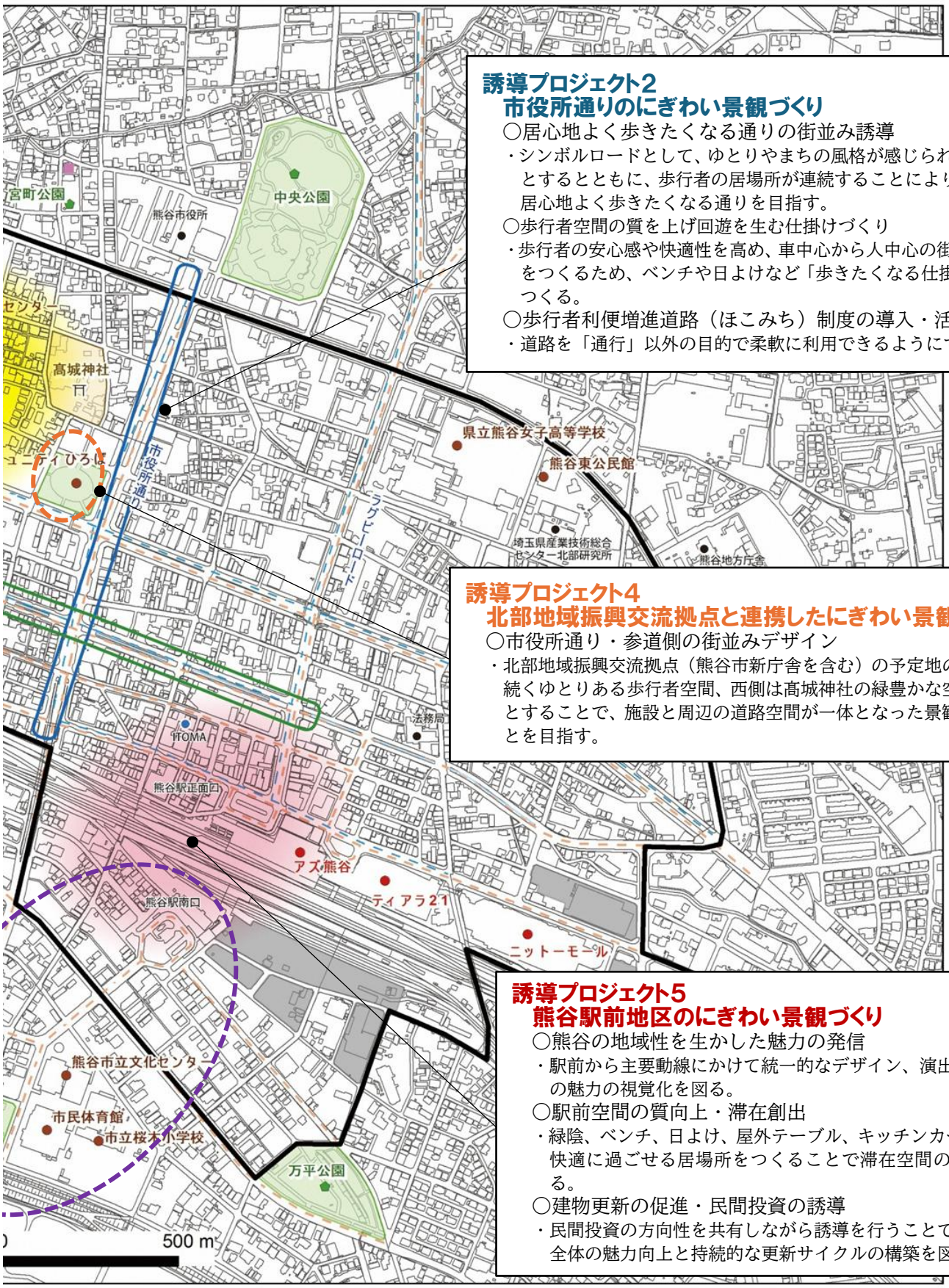
○その他関連するプロジェクト

・熊谷駅南口周辺まちづくりビジョン

・荒川公園周辺再整備計画

・熊谷市荒川かわまちづくり計画

※将来的な景観誘導地区への追加検討



誘導プロジェクト2
市役所通りのにぎわい景観づくり

○居心地よく歩きたくなる通りの街並み誘導

・シンボルロードとして、ゆとりやまちの風格が感じられる景観とするとともに、歩行者の居場所が連続することにより、より居心地よく歩きたくなる通りを目指す。

○歩行者空間の質を上げ回遊を生む仕掛けづくり

・歩行者の安心感や快適性を高め、車中心から人中心の街路空間をつくるため、ベンチや日よけなど「歩きたくなる仕掛け」をつくる。

○歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の導入・活用

・道路を「通行」以外の目的で柔軟に利用できるようにする。

誘導プロジェクト4
北部地域振興交流拠点と連携したにぎわい景観づくり

○市役所通り・参道側の街並みデザイン

・北部地域振興交流拠点（熊谷市新庁舎を含む）の予定地の東側は並木が続くゆとりある歩行者空間、西側は高城神社の緑豊かな空間に続く参道とすることで、施設と周辺の道路空間が一体となった景観を形成することを目指す。

誘導プロジェクト5
熊谷駅前地区のにぎわい景観づくり

○熊谷の地域性を生かした魅力の発信

・駅前から主要動線にかけて統一的なデザイン、演出を施し、地域の魅力の視覚化を図る。

○駅前空間の質向上・滞在創出

・緑陰、ベンチ、日よけ、屋外テーブル、キッチンカー等を導入し、快適に過ごせる居場所をつくることで滞在空間の質を向上させる。

○建物更新の促進・民間投資の誘導

・民間投資の方向性を共有しながら誘導を行うことで、駅前エリア全体の魅力向上と持続的な更新サイクルの構築を図る。

4　にぎわい景観の誘導施策

誘導プロジェクト１　星川通りのにぎわい景観づくり

星川通りの現状と課題を踏まえ、にぎわい景観づくりのためのデザイン誘導と取組を下記のように整理しました。

１）歩行者にやさしく様々な目的で利用できる道路空間

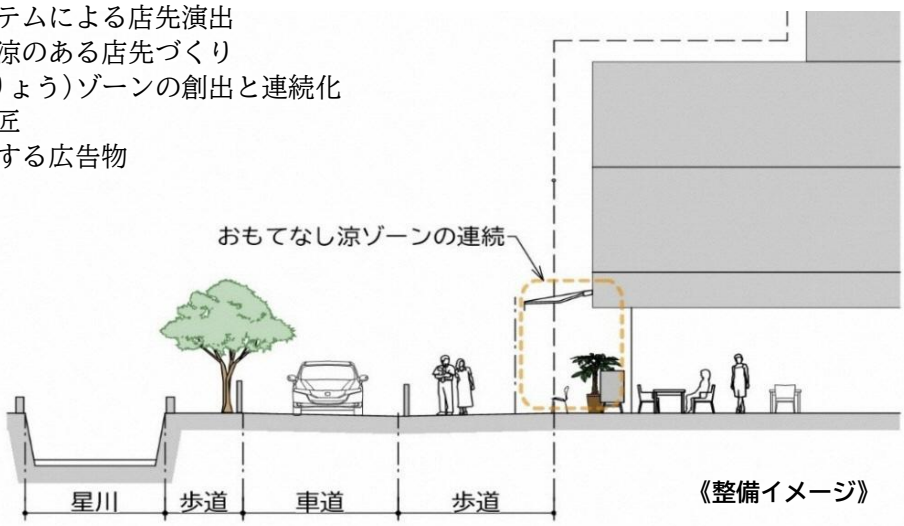
- 歩行者優先の道路空間の検討
- 「通行」以外の目的のための柔軟な道路空間の活用
- 星川親水空間と沿道の一体化



《星川通りの整備イメージ》

２）星川通りのおもてなしと涼を感じる街並み誘導

- おもてなしアイテムによる店先演出
- 日差しをしのぎ涼のある店先づくり
- おもてなし涼(りょう)ゾーンの創出と連続化
- 建物の形態や意匠
- にぎわいを演出する広告物



《整備イメージ》

３）沿道の低未利用地の利活用による街並みの連続化

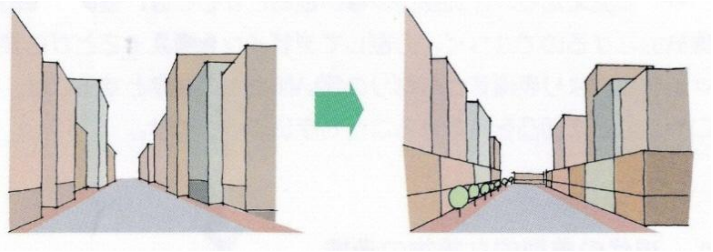
- パークレット型キッチンカーゾーンの設置
- 低未利用地・遊休地の暫定活用
- 空き店舗の活用
- 統一感を醸し出すデザイン導入

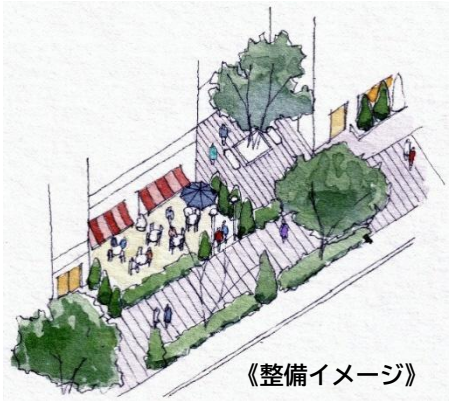
誘導プロジェクト２　市役所通りのにぎわい景観づくり

市役所通りの現状と課題を踏まえ、にぎわい景観づくりのためのデザイン誘導と取組を下記のように整理しました。なお、市役所通りは北部地域振興交流拠点の立地により街並みに大きな変化が予想されます。市のシンボルとなるエリアとして、通りと周辺施設の連携を図り、一体的に景観を捉えることが重要と考えられます。

１）居心地よく歩きたくなる通りの街並み誘導

- オープンスペースや緑がある建物の配置
- 通りから駐車場が見えない工夫
- 周囲とのつながりと街並みラインに配慮
- 建物の表情、色使い





《整備イメージ》

２）歩行者空間の質を上げ回遊を生む仕掛けづくり

- 歩きたくなる快適な歩行空間
- 道路空間の活用
- 都市の風格を醸し出す緑の適切な配置と維持管理
- 空き地の利活用へのインセンティブ（活用補助等）付与

３）歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の導入・活用

- 特例区域設定による柔軟な道路空間活用

・特例区域では、占用がより柔軟に認められる
・占用者を幅広く公募し、民間の創意工夫を活用した空間づくりが可能に
・公募により選定された場合には、最長20年の占用が可能
（テラス付きの飲食店など初期投資の高い施設も参入しやすく）



《市役所通りの整備イメージ》

誘導プロジェクト３　歴史文化・路地の魅力・まち巡りのにぎわい景観づくり

現状と課題を踏まえ、にぎわい景観づくりのためのデザイン誘導と取組を下記のように整理しました。

１）歴史・文化資源と調和した街路整備と情報発信

- 歴史文化コアという雰囲気を醸成する道づくり
- 歴史的背景を知りながら歩ける仕組みづくり
- イベント・文化プログラムの連携

２）星溪園の活用と周辺の整備

- 東側進入路の街路整備
- 庭園の活用
- 庭園の整備及び維持管理



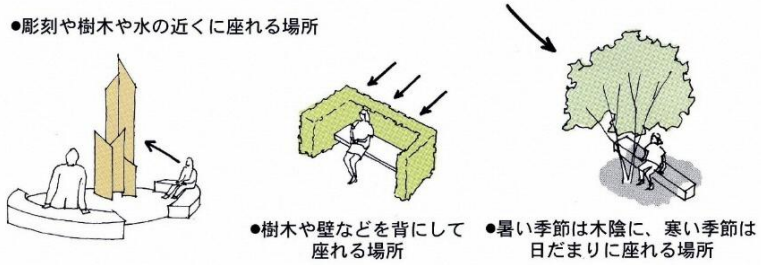
令和７(2025)年度星溪園ガーデンカフェの社会実験

誘導プロジェクト４　北部地域振興交流拠点と連携したにぎわい景観づくり

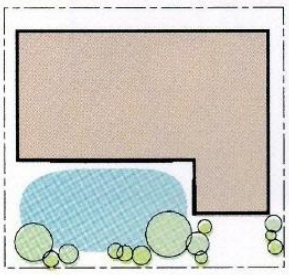
北部地域振興交流拠点基本構想や熊谷市庁舎整備基本構想では、施設配置の考え方や建設予定地が示されているものの、景観に関連する考え方は示されていません。施設整備の詳細は今後検討が進められることになりますが、予定地は、前述の誘導プロジェクトで示している市役所通り及び歴史文化コアにも近接することから、にぎわい景観づくりのための考え方を下記のように整理しました。

１）市役所通り・参道側の街並みデザイン

- オープンスペースや緑がある建物の配置
- 高城神社の参道の雰囲気をつくる
- 公共施設デザインの考え方の統一



《オープンスペースのイメージ》



誘導プロジェクト５　熊谷駅前地区のにぎわい景観づくり

熊谷駅周辺のにぎわい景観づくりは、地域性を生かした景観づくり、市街地への回遊促進、駅前空間の質向上、建物更新の促進の 4 つの視点を重点強化することで、“単なる交通拠点”から“滞留・回遊の起点となる玄関口”への誘導を目指します。

１）熊谷の地域性を生かした魅力の発信

- 「暑さ・スポーツ・川・歴史」をテーマにした景観演出
- 駅前と観光の連動施策

２）駅前空間の質向上・滞在創出

- 駅前広場の滞在機能の強化

３）建物更新の促進・民間投資の誘導

- 低未利用地・遊休地の暫定活用
- リノベーション等への支援



「スクマム！クマガヤ」
シンボルマーク・ロゴ
©熊谷市

5　計画の実現に向けて

■ にぎわい景観づくりの担い手育成･公民連携の取組

担い手育成・公民連携の現状と課題を踏まえ、担い手育成等の取組を整理します。

１）担い手育成のための仕組みづくり

- 熊谷まちづくりキャンパス（仮称）
- スモールチャレンジ制度（実験しやすい環境づくり）

２）公民連携の推進と中長期的な担い手の定着化

- 熊谷まちなかデザイン会議（仮称）
- エリアマネジメント組織への支援